

## 募集概要

募集人員：6名

入学者選抜方法：プレゼンテーション及び面接（口頭試問を含む）  
試験日・出願期間等：詳細な情報は下記受験情報サイトをご参照ください。  
<https://juken.ehime-u.ac.jp/>

## 取得できる学位の名称等

学位 修士（学術）

主たる  
学位の分野 工学、理学、農学、  
経済学、文学（心理学）



レジリエンス (resilience) とは  
「復元力」「回復力」「しなやかさ」「強靭さ」「弾力性」などと訳されます。

## ■愛媛大学大学院 地域レジリエンス学環 事務局

〒790-8577 愛媛県松山市道後樋又 10 番 13 号  
Tel. 089-927-8292  
mail. resilience@stu.ehime-u.ac.jp

<https://www.rr.ehime-u.ac.jp/>



この日常が、ずっと変わらない日常であるために。  
防災・減災・事前復興と少子高齢化時代における  
地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。

## 愛媛大学大学院 地域レジリエンス学環 令和5年4月開設



# 愛媛大学大学院地域レジリエンス学環(修士課程)は、「研究科等連係課程制度」を活用した分野横断型の新しい教育課程です。

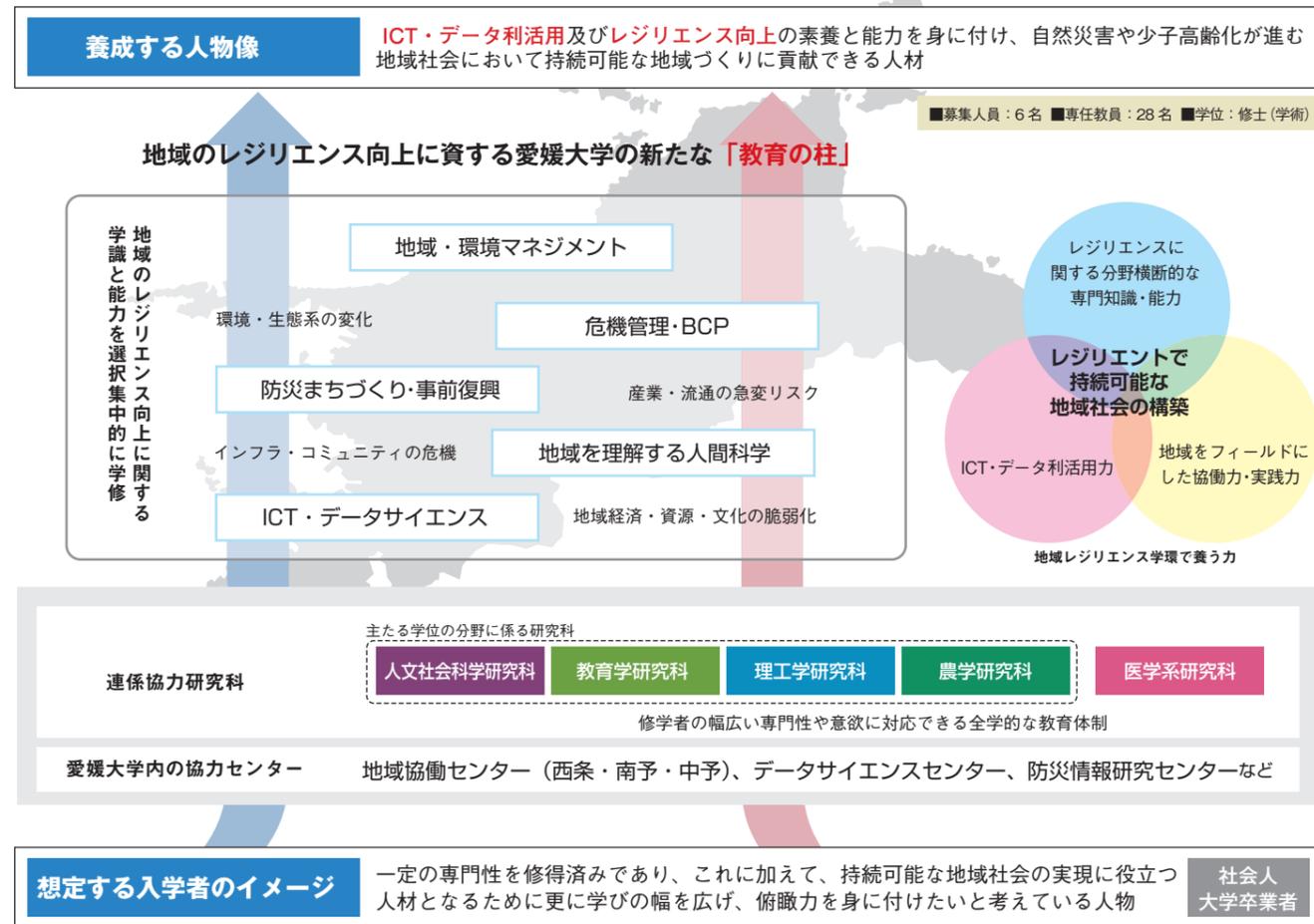
## 地域レジリエンス学環について

愛媛県を含む四国地域は、近年の地球温暖化により頻発化する豪雨や周期的に動く南海トラフによる大地震等の自然災害リスクに曝されています。また、少子高齢化が全国で最も早く進んでいる地域の一つです。社会活動の中断を迫られるような大きな変化の中でも、柔軟かつしなやかな対応ができ持続可能性のある地域社会づくりは喫緊の課題です。このためには、災害に強い強靱な社会基盤整備を進めていくだけでなく、人と自然、人と社会のつながりを通して、誰もが住みがいのある地域を築くために、地域のこれまで、そしてこれからの展望し、事前に策を打っていきける人材の育成が求められています。

このような状況を踏まえて、大学のもつ資源を結集した新しい形の大学院「地域レジリエンス学環(修士課程)」を設置いたします。本学環は、文部科学省が法令で定める「研究科等連係課程制度」を活用して、本学の人文社会科学部研究科、教育学研究科、理工学研究科、農学研究科、医学系研究科の5研究科の協力により設置するもので、本学では令和4年4月に設置した大学院医農融合公衆衛生学環(修士課程)に続き2つ目となります。

本学環では、既存の学問分野を横断的、複合的に学び、実践的能力を身に付けるための教育を行います。これにより、専門性や実務・学術領域を超えて人と人、知と知をつなぎ、「自然」「インフラ」「産業」「歴史」「文化」「コミュニティ」からなる地域資源を育みながら、持続の可能性を見据えて課題解決できる人材を育成して地域の幅広い分野へ輩出し、自然災害や少子高齢化等の急激な社会情勢の変化に対し、地域社会を存続させる力の向上、すなわち「地域のレジリエンス向上」に寄与することを目指します。

## 地域レジリエンス学環の概要



## 教育課程等の概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
			必修	選択	講義	演習	実験・実習
基盤科目	SDGs 概論	1前	1		○		
	レジリエンス学概論	1前	1		○		
	データサイエンス概論	1前	1		○		
	デジタルエスノグラフィー実習	1前	1				○
	サーベイメソッド・プログラム評価法	1前	1		○		
	プロジェクトマネジメント概論	1前	1		○		
小計(6科目)		—	6	0		—	
地域理解	人類学特論	1後		1	○		
	環境情報マネジメント	1後		1	○		
	環境経済学	1後		1	○		
	自然社会環境論	1後	1		○		
	コミュニティ心理学特論	2前		1	○		
	公共ガバナンス論Ⅰ	2前	1		○		
	公共ガバナンス論Ⅱ	2前		1	○		
	地域マネジメント論Ⅰ	1前	1		○		
	地域マネジメント論Ⅱ	1後		1	○		
	海域社会論	1後		1	○		
	ミクロ経済学	1前		1	○		
	景観まちづくり	1後		1	○		
	専門科目	センシングと応用	1前		2	○	
ICT/データサイエンス/AI特論		1後	2		○		
知能的食料生産科学特論		1後		2	○		
災害情報学		2前		1	○		
バイオインフォマティクス特論		2前		1	○		
防災・減災工学		1前	2		○		
危機管理と事前復興・事業継続計画		1後	1		○		
リスクコミュニケーション		1後		1	○		
災害と福祉法政策		1後		1	○		
災害医療と地域包括ケア		2前		1	○		
国際防災戦略と危機対応	2前		1	○			
小計(23科目)		—	8	19		—	
実践科目	地域協働インターンシップⅠ	1前	1				○
	地域協働インターンシップⅡ	1後		1			○
	地域レジリエンスPBLⅠ	1前	2				○
	地域レジリエンスPBLⅡ	1後	2				○
	地域レジリエンスPBLⅢ	2前	2				○
小計(5科目)		—	7	1		—	
特別研究科目	特別演習Ⅰ	1前	1				○
	特別演習Ⅱ	1後	1				○
	特別演習Ⅲ	2前	1				○
	特別演習Ⅳ	2後	1				○
	小計(4科目)		—	4	0		—
合計(38科目)		—	25	20		—	
学位又は称号			修士(学術)				
修了要件及び履修方法							
本課程に2年以上在籍し、所定の単位数を30単位数以上(基盤科目6単位数、実践科目7単位数以上、専門科目13単位数以上、特別研究科目4単位数)を修得することに加え、学位論文または特定の課題についての研究成果を提出し、審査及び最終試験に合格することとする。							

教育課程は、「基盤科目」「専門科目」「実践科目」「特別研究科目」の4つの科目群で構成し、地域をフィールドとしたレジリエント社会の構築について実践的かつ分野横断的な教育プログラムを展開します。

- 基盤科目** レジリエントな地域社会を実現するための基礎的な素養を学修
- 専門科目** 地域理解、ICT・データ活用、レジリエンス向上のための分野横断的な専門学識を深化
- 実践科目** プロジェクト形式の実習における「分野横断指導チーム」の複眼的・俯瞰的指導を通じ、地域をフィールドにした協働力、実践力を涵養
- 特別研究** 研究計画書の作成、研究計画に基づいたデータ収集・分析、研究論文の執筆・発表について学修

## 修了後の活躍分野

公務員(国、自治体)、民間企業、NGO/NPOなどの様々な業界における以下のような役割が想定されます。

- リスクと地域発展性をデータに基づいて科学的・数量的に評価しつつ、持続可能な防災まちづくりを立案
- データ・AIを活用しつつ多様な取引先との協働により柔軟性のあるBCPを策定・実践し、就職先企業のレジリエンス向上に貢献
- 複数のコンピテンスを活かして、環境や福祉などと連携した防災を通して地域参画型のまちづくりの支援および実践を先導
- 農家や水産業従事者のニーズを丁寧に汲み取りながら、ロボットやICTの活用、他業種との連携促進等の支援を通して、自然災害や気候変動に対してしなやかな農水産業の実現に貢献
- 地域の魅力の発見、多様な人々との人間関係を深めることができる能力を活かして、地域コミュニティの魅力を最大化しつつ、地域防災力を向上させていく事業を地方において展開
- 地域住民等のステークホルダーとの対話を通して、ICTを駆使した展示物とその活用方法を教育効果の観点から検証・改善し、防災に関する効果的な学習環境を開発